

次年度以降の高品質・良食味米の生産に向けて 秋の土づくりを実践しましょう。

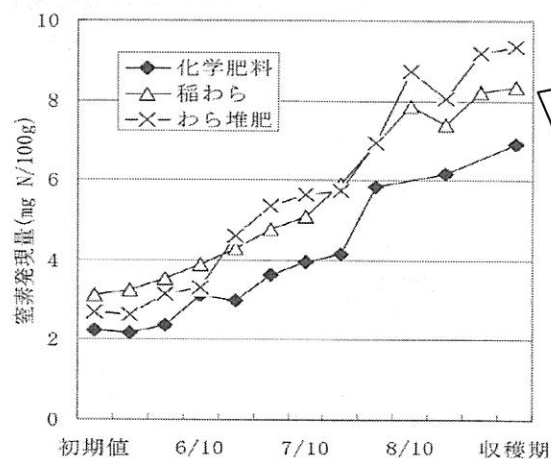
平成23年9月22日
営農経済部 営農企画課
電話：0256-39-7011

☆稲わら・籾殻は、秋すき込みにより地力増進に役立てましょう！

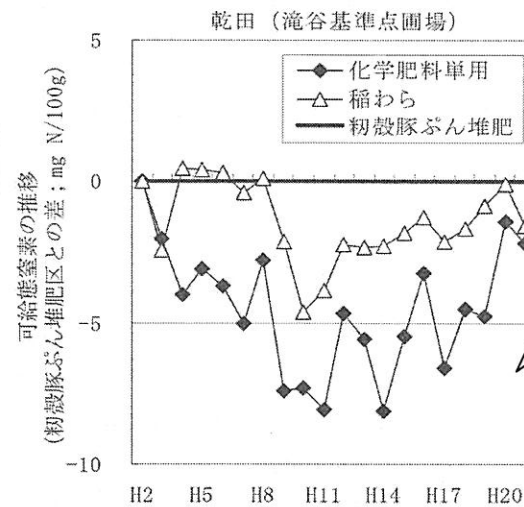
水稲が吸収する窒素の7割は地力窒素!! 地力窒素は、減肥栽培など肥料コストの低減や、生育後期の活力維持・登熟向上に大きな役割を担っています。籾殻や稲わらの連年投入により、地力窒素の供給源を増加させることで、気象変動に負けない・環境に配慮した米づくりを実践しましょう！

1. 稲わらすき込みの効果

- 土壌の団粒化による保肥力・保水力向上：特に乾田化が進んでいる圃場では効果的
- 地力の維持・向上：窒素供給力の増加・微量元素供給（リン酸・ケイ酸・カリ等の再利用）



稲わらの連年施用で、
土壌からの窒素発現量
が増加します。



乾田は、有機物を施
用しない場合、地力
の低下が大きい!

図IV-4 ほ場インキュベーションによる
窒素発現量の推移（平成22年、長倉基準
点ほ場、有機物連用27年目）

交通機関や住環境にも配慮して、籾殻・稲わらは
焼却せず、田んぼにすき込みましょう。

2. すき込みのポイント

- 腐熟の促進を図るため、地温が高い10月中旬頃までに実施
地温15℃以下になると、土壌微生物の活性が低下し、分解が十分進みません。また、秋にすき込んだ方が、春すき込みに比べて分けつ期のワキの発生を軽減することが出来ます。
- すき込みの耕深は、5～10cmの浅打ちに
稲わらを分解する土壌微生物に酸素が供給され、分解が進みやすくなります。また、春先の土壌乾燥に効果的です。

お知らせ

23年産米の放射性物質検査の結果をJAにいがた南蒲ホームページに掲載しました。
ホームページアドレス <http://www.ja-niigatanankan.or.jp>

3. 稲わら腐熟促進材の活用

稲わらの分解が十分に進まない、ワキが発生して分けつの遅れ等、初期生育の不良が懸念されます。秋すき込みと併せて「稲わら腐熟促進材」を活用すると、ワキの防止に更に効果的です！

おすすめの資材	ワラ分解キング (10kg) 【2,000円(税込当用配達価格・通常決済)】	アグリ革命 (2kg) 【2,560円(税込当用価格・通常決済)】
	標準施用量：10kg/10a	標準施用量：2kg/10a
	ワックス分解菌とセルロース分解菌を含有する微生物資材。比較的低温でも分解促進効果がある。	セルロース分解酵素により稲わらを分解。すき込まなくてもいいので省力的。

4. 土づくり肥料の活用

各土壌養分の過不足は地域や圃場管理によって異なるため、土壌診断を活用し、不足分を補給しましょう。

おすすめの資材	なんかん穂垂ソイル元気 (20kg) 【1,610円(税込当用配達価格・通常決済)】
	標準施用量：40kg/10a
	保証成分/リン酸：5、アルカリ分：41、ケイ酸：26、苦土：10 省力的・総合的な土づくり肥料。春、秋いずれも散布できる。

土壌分析のご案内

1. 分析項目：pH、EC、リン酸吸収係数、有効態リン酸、石灰、苦土、加里、CEC、腐植、遊離酸化鉄、ケイ酸
2. 土壌の採取方法：参考書類「土壌サンプルの採り方」でご確認ください。
3. 提出日、場所：10月14日(金)までに、お近くの資材センター、営農センターへご提出ください。
4. 提出量：1点200g(茶碗1杯程度)、1人につき5点まで(無料)
5. 記入事項：下の「記入例」に従って土壌サンプルごとにラベルを添付してください。記入用紙は各資材センター、営農センターに置いてあります。(JAにいがた南蒲ホームページからもプリント可能)

※「土壌採取袋」は特に指定してありませんので、中が汚れていないビニール袋や封筒をご使用ください。

氏名	南蒲 太郎
住所	三条市下保内 348-1
電話番号	0256-39-7011
採取日/採取ほ場番地	H23.9.23/三条市下保内 346-1
ほ場種類	水稲 畑作 果樹